

事務事業評価シート（評価実施年度：平成27年度）

上位の施策名称 施策Ⅲ-1-2 発達段階に応じた教育の振興

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長 教育指導課長 山崎 敦史 電話番号 0852-22-5444

事務事業の名称	キャリア教育推進事業		
目的	(1) 対象	県内の小・中・高等学校	
	(2) 意図	これからの社会を生きていく児童・生徒一人ひとりの個性や創造力を伸ばし、夢に向かって挑戦していこうとする意欲や自立心を育む教育活動を推進する。	
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> 児童・生徒の生きる力を育むため、指定した連携地域の小・中学校に対し、地域と連携したキャリア教育を推進する。□小中連携キャリア教育推進事業 生徒の個性・創造力を伸ばし、夢に向かって挑戦しようとする意欲を育むため、県内の高校生や県立の高等学校に対し、学力向上などにつながる取組を推進する。 <ul style="list-style-type: none"> □生徒の夢を実現する普通科高校教育力アップ事業 □創造性・個性を育む専門高校魅力アップ事業 □夢実現進学チャレンジセミナー □学びの力向上チャレンジセミナー 高校生の創造力・コミュニケーション力を育むため、県内の高校生に対し、島根の食材と他地域の食材を組み合わせた料理コンテストを実施する。□食の縁結び甲子園 		

2. 成果参考指標

(1) 成果参考指標	指標名	式・定義	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率	
指標名	夢実現進学チャレンジセミナー参加率	参加人数/募集定員×100	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	%
			目標値		100.00	100.00	100.00	100.00	
			実績値	-	98.60	72.90	75.00		
式・定義	参加人数/募集定員×100		達成率		98.60	72.90	75.00		%
			年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	
			目標値		100.00	100.00	100.00	100.00	
指標名	学びの力向上チャレンジセミナー参加率	参加人数/募集定員×100	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	%
			目標値		100.00	100.00	100.00	100.00	
			実績値	-	70.00	92.00	60.00		
式・定義	参加人数/募集定員×100		達成率		70.00	92.00	60.00		%
			年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	
			目標値		100.00	100.00	100.00	100.00	

3. 事業費

	26年度実績	27年度計画
事業費(b) (千円)	-	30,825
うち一般財源 (千円)	-	30,825

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	⑤H27新規
---------------------	--------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

- 小・中連携キャリア事業の指定地域の西ノ島町では、町が目指すキャリア教育の方針が定まった。
- 普通科高校教育力アップ事業や専門高校魅力アップ事業を通して、学校独自の特色ある教育が推進された。
- 夢実現進学チャレンジセミナー、学びの力向上チャレンジセミナーの参加率は、それぞれ75%、60%であった。

6. 成果があったこと（改善されたこと）

- 小・中連携キャリア教育推進事業により、小学校・中学校が、町の目指すキャリア教育の方針に従い、連携して積極的な実践研究を展開し、子供たちの社会貢献意欲が高まった。
- 普通科高校教育力アップ事業や専門高校魅力アップ事業を通して、各学校の学力向上につながる教育活動やキャリア教育に基づく魅力ある教育活動が行われ、自校の魅力発信や地域連携などにつながっている。
- 夢実現進学チャレンジセミナー、学びの力向上チャレンジセミナーを通して、志を高く持ちチャレンジしようとする意欲や学びの楽しさが喚起された。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

①困っている「状況」

- 夢実現進学チャレンジセミナー、学びの力向上チャレンジセミナーの参加率が、やや低調である。

②困っている状況が発生している「原因」

- 高い志を持ち高い目標に向かって積極的にチャレンジしようとする生徒が少ないため。コミュニケーション力に不安があり、自分の知らない生徒が集うセミナーへの参加に消極的なため。専門高校の生徒の参加が少ないため。
- 夢実現進学チャレンジセミナーの募集において、参加できる実習プログラムが、医学部志望の生徒と文系の生徒に限定されており、医学部以外を志望する理系の生徒に準備されていなかったため。

③原因を解消するための「課題」

- 生徒が学ぶ目的を理解し主体的に学ぼうとしたり、人間関係形成能力を向上させたり、自己肯定感や高い目標に挑戦しようとする高い志を持てるような教育活動を推進すること。専門高校への周知を積極的に行うこと。
- 医学部以外を希望する理系の生徒に向けた実習プログラムを実施すること。

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

- 各高校が自校の求める生徒像やビジョンに沿って、キャリア教育の推進に努め、基礎的・汎用的能力の育成に取り組む。
- 夢実現進学チャレンジセミナーについては、参加者を医学部医学科と文系及び理系（医学科以外）の2つのグループに分けて募集を行い、実習プログラムに参加する生徒の意識向上を図るとともに、プログラムの内容充実を図る。

◎課（室）内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

◎上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価（任意記載）